



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.

23

LONGIN

in Tokyo Japan since 2011

フリーペーパー
ロンジンマガジンVol.5も
釣具店にて絶賛配布中!



レビンライト特集記事はケース
パスのりに役立つ情報記事
満載! 弊社製品取扱店にて無
料配布しておりますので、足
跡が伸びる限り下さい(配布終
了の際はご容赦下さい)。

絶対エース!
シャロー攻略の

NEW

LEVINLIGHT
レビンライト
95mm 12g 1,600円+税

sinking type pencil bait for salt water

全13色

カッ飛び表層対応のライトモデル!! シャローに特化したレビンが登場!

レビン(ライト)は重量が軽くなったことでフィンキールの水堀み力がさらに強く影響、水を受けて曲れた唇のスタイト幅がよりワイドになることで、レビン(ライト)の中でもいちばん大暴る手を掴みながら瞬時にアールを跳ねるが特徴。幅広いリトリブススピード & 真直の直化に対応し、強い流れの中や早急な水堀直下へ約40cmのファーストレンジでレビン(ライト)特有の鋭い泳ぎでシンシローアールを演出し、泳ぎが速い。キープした期間の、ランチを引く誘われるキープアールは、12gの自重とは思えないほど一切のアールを無く突きのようにカッ飛びます。浅層が速く、水堀直下をテッドスローに誘ってこれるシャローに特化したモデルなので、河口、干潟、河川、汽水域などのシャロー帯での効果は絶大です!

フランクキーに新色登場!



数量限定の落ちアユを含む6色が新登場!

FRANKY

120mm 20g Floating 1,900円+税



LONGIN

<http://www.longin.jp> ホームページにてWEBマガジン発行中!



都市型フィールド 攻略における バイブレーションの 重要性

港湾におけるバイブレーションの重要性とはなにか。ポイントの特徴とアクションを理解すれば、シーバスゲームはもつとイージーになる。

Text by 三宅善洋

もしもの話ですが、たったひとつだけのルアーを釣り場へ持っていくとするならば、あなたは一体どんなルアーを選ぶでしょうか？

この質問に対し、特殊な条件が重ならない限り、私なら間違いなく『バイブレーション』と答えると思います。もちろん実際には、たったひとつのルアーだけで釣りをすることはほとんど無いのですが、運河や港湾部、護岸された河川などを代表とする、いわゆる『都市型のフィールド』を1年間通して攻略していくにあたり、バイブレーションが非常に重要な位置づけを担っていることは、いまさら言うまでもないかと思います。

では、なぜバイブレーションを使いこなすことが重要なのでしょうか

か？ その理由は、都市型フィールドの独特の地形環境と、その結果生じるシーバスの性質にあると考えています。もちろんひとくりに都市型フィールドと言っても、いろんな釣り場や条件があるので一概に語ることはできませんが、以下の点が多くポイントで共通している特徴として上げられます。



キックピートがあれば湾奥攻略が可能です。今後ロンジンが作り出すミノ一系があれば、さらに攻略の幅が広がりますね！

①人々が安全に水辺に近づけるよう護岸されているため、足下からそれなりに水深があることが多く、魚の意識しているレンジがどこなのか、上から下まで幅広いレンジを効率よく探っていく必要がある。

②運河や港湾部等では、多少の流れはあるものの河川のような一方向の強い流れは効きづらいため、居る魚に口を使わせるには、多少なりともリアクシヨンの要素がカギになることが多い。逆に都市型の河川では、シャローが少ない分足元から流心部まで非常に強い流れが発生する。

結果的に、大量のベイトが流されているときを除けば、シーバスは流れに耐えるために橋脚などのストラクチャーのボトム際に寄り添うように定位しているケースが非常に多く、安定した釣果を挙げるためには、ボトム狙いの釣りが必須である。

③例外的に大型のサッパやコノシロが回遊している状況を除けば、年間通してシーバスの捕食しているベイトは全体的に小型のものが多く、シーバス自体も中小型のサイズが多いため、基本的にシルエットの小さいルアーに反応が良い。



キックビートはリフト時に水噛みを強く設計しているため、壁際などでのリフト & フォールはアピール抜群の威力を発揮する。

上記にて、自分なりの考え方を整理してみましたが、必要なルアーはどのようなものなのか考えてみると「上から下まで探れるレンジの融通性があり、多彩なアクションが可能で、小さめのルアー」ということになります。よって選択肢がバイブレーションプラグになることは、自ずと理解できるのではないのでしょうか？

キックビートの優れた性質

一言でバイブレーションプラグといっても各社から多くの製品が出ています。では、どのような点に着目してルアーを選べばよいのでしょうか？ 私の場合キックビートシリーズを愛用していますが、その理由はタダ巻き～ジャークまで、多彩なアクションを高いレベルで演出できる点にあります。

キックビートの特徴は、後方に広がったヒレによって強く水を動かしつつも、一方で、アイの位置やウエイトバランスによって『水を受け流すこと』も非常に得意としています。水を受け流すことが得意で

あるということは、言い換えれば、『水を掴み安定していない』＝『適度に不安定』ということ。水流の変化やリトリーブスピード、ロッドアクションなどによって簡単にバランスを崩すことが可能、つまり多彩なアクションを意図した通りに演出ができることになります。

様々な釣り場の存在する東京湾奥では、1つのルアーでカバーできる『守備範囲の広さ』が重要になってきますので、湾奥においてキックビートは非常に使いやすいルアーだと感じています。

キックビートの使い方

キックビートは自分の中では大きく3つの使い方をしていきます。状況次第でその3つを組み合わせることもあります。

①タダ巻き+ボトムコンタクト

比較的流れのあるエリアにおいて、低水温で魚の活性の低い時期や、まとまったベイトの少ないタイミング、活性に関わらず魚がボトムへ依存しやすくなるハードボトムのエリアなどで有効なテクニックです。

あらゆるルアーにおいて最も基本的なアクションであるタダ巻きですが、キックビートを使う際のコツは『軽くボトムに当てていくこと』です。ボトムにコンタクトさせることにより、ルアーが平打ちし

てバランスを崩します。その瞬間に魚が餌を追い込んだと思い、通常のタダ巻きでは口を使ってくれない魚にもバイトするきっかけを作ることができるのです。これは一般的にデイゲームで使用されるテクニックだと考え



釣り人が多くプレッシャーの高い港湾部でも、メソッドを変えていけば魚からのコンタクトが得られることが多い。

る方も多いと思いますが、実際には地形次第では夜間も非常に有効なので、ボトムに魚が着きやすい場所であれば是非試してみてください。

コツは、単純にボトムに当てていくだけならばルアーは重い方が良いのですが、重すぎると根掛かりの原因となってしまいますので、「普通に引いてきてたまにボトムにコンタクトする程度」のウエイトのルアーを選ぶことです。キックビートには12g、15g、20gと3種類のウエイトがありますから、使用するポイントによって使い分けてみてください。適正なウエイトを選べば、ルアーがボトムに当たった際にロッドを立てることにより、根掛かりを回避することが可能です。

なお、ボトムコンタクトの瞬間を確実に感じ取りボトムの質や形状等の情報を正確に読み取ることが必要な釣りですので、タックルの感度が非常に重要となってきます。予算の許す範囲で、軽量で振動伝達性に優れたロッドや、リトリーブの滑らかなリールを使用することをオススメします。



湾奥の光溢れるナイトゲームは、素晴らしい夜景を独り占め！釣りながら最高のロケーションを味わえるのも楽しみである。

②連続ソフトジャーク

私の中では最も多くの釣果を出しており、様々なポイントで有効なテクニックです。ボトムまで沈めたあとにワンピッチの連続ジャークで巻き上げてくるメソッドですが、最も反応が良いのは、ストラク



水中でのルアーとボトム、ストラクチャーの位置関係をしっかりイメージして釣りをすることが大切だ。

チャー周りに甲殻類や小型のハゼやカレイなどの定着性のベイトが多くなる初夏から秋にかけてです。

このテクニックの面白いところは、横方向のスライド＋縦方向のホップ＆フォールという3次元の立体的な誘いによって、タダ巻きやミノーのジャッキングなどの2次元の誘いには全く反応しない魚にも口を使わせることが可能な点でしょう。

極力ラインスラッグを出さないようにハイギヤのリールと若干柔らかめのロッドを組み合わせ、フワリフワリとジャークというよりリフト＆フォールをやや早めにやるようなイメージで、ソフトに操作するのがコツですね。

パイプレーションのジャッキングは、単にルアーをアクションさせるだけであれば、ハリのある強めのロッドでバシッ！ とあおりつつ直後にラインスラッグを出すような方法になりますが、キックビートを操作する際にはその逆の方がテーリングなどのトラブルを防げるとともに、魚からの反応も良いと感じています。

ストラクチャー際のフォーリング

3つ目は、ストラクチャー際に魚数が多くなる夏場と、多くのベイトが回遊している秋～初冬にかけての季節限定となりますが、ハマった際の爆発力は目を見張るものがあります。他の釣り方では全く反応

しない魚にも口を使わせることができる、非常に面白いパターンです。

やり方は、橋脚などの強い流れの当たるストラクチャーの側面ギリギリにルアーを打ち込んで、ルアーの重さをロッドティップに軽く感じるようにしながら、ラインを張らず緩めずの状態を送り込んでいきます。魚がバイトすればロッドティップにツン！ とアタリが出ますので、即合わせでフッキングを狙います。

この釣り方の注意点は、ストラクチャーの際からルアーが離れると魚が全く反応しなくなるので、ストラクチャーギリギリにキャストすること。あとはルアーをフォールさせるときはカーブフォールではなく、際からルアーが離れないようロッドでラインを送り込んであげましょう。単にフォールさせるといっても強い流れの中にルアーを落とし込んでいくので、ルアーは軽くドリフトしながら沈んでいきます。この『ドリフト』のイメージが非常に重要で、うまく流れに馴染んでフォールさせられたときに最もバイトが出やすいです。キックビートは側面が広く取られていることで、流れを捉えて絶妙なフォールが演

出可能で、ドリフトもさせやすいですね。

このテクニックも、最低限ボトムまで落とせる重さを選びつつ、流れに馴染ませるためのウエイトを選ぶことが重要なので、ポイントによって3種のキックビートを使い分けるとよいでしょう。



フォーリングの釣りはハマるととにかくスゴイ！ 秋～冬はこのメソッドを是非試してみたい。



三宅善洋 (みやけ・よしひろ)

LONGIN.フィールドスタッフ。東京湾奥エリアをホームとするアングラー。幼少より過ごした宮崎県での釣り経験をもとに、独自のロジックに基づいた都市型フィールドでのテクニカルゲームを得意とする。

LONGIN. が贈るフリーペーパー

ロンジンマガジン Vol.5

弊社製品取扱店にて好評配布中!



秋の特別発行となったロンジンマガジンは今号で第5号! (特別発行号なので、前号よりは本の厚みが薄めです)

新製品レビンライトの巻頭解説記事に加え、秋のハイシーズン前に読みたいバイブレーションの使い方記事2本、魚の居場所を探りながら釣るための基礎知識記事を収録した保存版!

本は薄くなったけど中身はアツい今号も、もちろん無料配布! 弊社ルアー取扱店全店に順次発送していますので、店頭になかった場合は店員さんに聞いてみて下さい! (弊社在庫があれば、お店へ送らせていただきます)。

ロンジンマガジンのご意見・ご感想もお待ちしております (HP アンケートよりお送り下さい)。

ロンジンマガジン Vol.5

配布価格: ¥0 (フリーペーパー)

版型: A5 版 24 ページオールカラー

発行: 株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中
(数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい)



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE Vol.20

発行日：2015年10月2日

株式会社 LONGIN.